

# 聖路加国際病院 皮膚科



## 専門研修プログラム

2010年4月1日版

### 診療内容・科の特色

- 当科には皮膚科専門医が常勤4名，非常勤2名，臨床教育アドバイザー3名在籍し，その下で研修医3名が指導を受けており，皮膚科を学ぶ研修医にとっては周囲の環境は非常に恵まれている．当科では特に乾癬，膠原病，悪性腫瘍，アトピー性皮膚炎，アナフィラキシーなどのアレルギー疾患患者が多いことが特徴で，乾癬患者においては乾癬患者会の事務局であり，当科には全身型PUVA，手足型PUVA，ナローバンドUVBそれぞれの医療機器を装備し，数多くの患者に対しそれぞれの病態に対応して治療している．また2010年3月からは，乾癬に対する抗TNF製剤の適応も通り，当院はTNF製剤の治療も可能な施設でもあり，今後も多数の乾癬の患者が受診することが予想される．また院内では膠原病内科，形成外科，病理診断科，放射線科と定期的なカンファレンスを通して重症例などの診断・治療について綿密に連携しており，当院では特に重症の膠原病患者や皮膚悪性腫瘍患者を診る機会が他の施設に比べても多い．アナフィラキシーに対する精査とエピペン®の投与と指導や円形脱毛症に対するSADBE療法も導入している．その他血管腫や色素性疾患などへのレーザー治療のほか，自費部門として美容関連ではケミカルピーリング，イオン導入，各種レーザー治療，陥入爪に対するワイヤー治療法や壮年型脱毛に対するプロペシア®投与などがある．また当院では積極的に外国人の受け入れ体制が計られ様々な外国人が多く訪れるため，人種を越えた皮膚疾患を診る機会にも恵まれる．また海外渡航からの帰国者の輸入感染症など稀な疾患も診る機会がある．毎年多数の国内および海外の学会に参加し発表しているため，院内の臨床経験のみならずより多くの新しい知識を学会などで吸収できることが期待される．以上から専門研修医にとって当院は非常に恵まれた環境である．
- 研修医の皆様へ：当科ではできるだけ知識が偏らず幅広い知識を持てるよう努力しております．美容など専門性のみを希望される先生はご遠慮ください．

### 診療実績（2009年度）

- 外来患者数： 初診 3,324人，再診 38,026人
- 入院患者数： 209人
- 総手術件数： 件
- 学会発表： 20件以上



## 施設認定

- ・ 日本皮膚科学会
- ・ 日本皮膚科専門医指定施設

## 専門研修医応募資格

- ・ 前期研修修了もしくは修了予定者。

## 取得（受験資格）可能な認定医、専門医等

日本皮膚科学会認定 皮膚科専門医

申請時の必要条件：学会ホームページ参照

## 皮膚科専門研修プログラム

### ・ GIO

一般臨床医として皮膚および可視粘膜に表れる症状を適切に判断して、その患者の診断治療に速やかに対応できる皮膚科学的な知識、診断力、考え方と技能を身につける。

### ・ SBO

1. 医師として患者およびその家族と医学的および一般的なコミュニケーションができる。
2. 一般社会人として患者を全人的に理解し、患者や家族の社会的経済的・心理的背景を把握して理解できる。
3. 守秘義務を果たし、患者のプライバシーに配慮した対応が診療および診療外においてもとれる。
4. 医師として一般的なレベルでの問診、皮膚所見の診察と記載、一般身体所見の診察と記載ができる。
5. 皮膚所見を診てその診断治療に必要な直接鏡検など自分で行う検査ができる。
6. 皮膚所見を診てその診断治療に必要な臨床検査を選択できる。
7. 臨床検査結果を正しく解釈し、評価できる。
8. 皮膚疾患の基本的治療法を選択して実施できる。
9. 皮膚病変から推測できる他臓器疾患、全身疾患について適切に専門医にコンサルテーションできる。
10. 皮膚科救急疾患の初期診療ができる。
11. 皮膚科手術の助手として参加でき、簡単な切除や生検は術者としてできる。
12. 皮膚科手術の術前、術後の管理ができる。
13. 入院治療計画書について患者およびその家族に説明できる。
14. 入院患者の処方や指示が出せる。
15. 病状の説明を患者と家族にできる。
16. 退院証明書、退院時指導計画書を作成して説明できる。
17. 診療録、退院時サマリーを記載できる。
18. カンファレンスで症例のプレゼンテーションができる。
19. コメディカルのメンバーと適切なコミュニケーションが取れる。  
チーム医療を理解し、実践できる。
20. 患者および医療従事者の安全性に配慮できる。

・ LS1 On the job training (OJT)

手帳 No.	頻度の高い症状
1	全身倦怠感
5	浮腫
6	リンパ節腫脹
7	発疹
9	発熱
15	結膜の充血
29	関節痛
31	四肢のしびれ

手帳 No.	緊急を要する症状・病態
51	熱傷

・ 経験が求められる疾患・病態

手帳 No.	血液系
55	悪性リンパ腫

手帳 No.	皮膚系
62	湿疹・皮膚炎群
63	蕁麻疹
64	薬疹
65	皮膚感染症

手帳 No.	免疫・アレルギー系
129	アレルギー疾患

手帳 No.	基本的手技
141	気道確保
142	人工呼吸(バッグマスクを含む)
143	心マッサージ
144	圧迫止血法
146	注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)
147	採血法(静脈血、耳朶血、指尖血、動脈血)
148	腰椎穿刺
149	導尿法
150	ドレーン・チューブ類の管理
151	胃管の挿入と管理
152	局所麻酔法
153	創部消毒とガーゼ交換
154	切開・排膿
155	皮膚縫合法
156	外傷・熱傷の処置
157	気管内挿管

手帳 No.	基本的臨床検査
168	一般尿検査(尿沈渣を含む)
169	便検査(潜血、虫卵)
170	血算・白血球分画

171	血液型判定・交差適合試験
172	心電図(12誘導)、負荷心電図
173	動脈血ガス分析
174	血液生化学的検査
175	血液免疫血清学的検査(免疫細胞検査、アレルギー検査を含む)
176	細菌学的検査検体の採取(痰、尿、血液など)
177	簡単な細菌学的検査(グラム染色など)
180	細胞診・病理組織検査
182	超音波検査
183	単純X線検査
184	造影X線検査
185	CT検査
186	MRI検査
187	核医学検査
189	CPCレポート

・ LS2 勉強会・カンファレンス

ホスピタルカンファレンス

ジュニアレジデント対象の統一カンファレンス。将来の専攻を問わず、初期2年間において必須と考えられる内容とする。一年目の本カンファレンスの出席は他の業務に優先した義務とする。毎回出欠をチェックする。カンファレンス後に評価を行う。

レジデントミーティング

教育・研究センターによるジュニアレジデント対象の統一カンファレンス。将来の専攻を問わず、初期2年間において必須と考えられる内容とする。一年目の本カンファレンスの出席は他の業務に優先した義務とする。毎回出欠をチェックする。カンファレンス後に評価を行う。

・ EV (評価)

- ◇ 自己評価: 日本皮膚科学会の定めた皮膚科専門医の研修到達目標に照らし合わせて自己評価する。
- ◇ 指導医による評価: 3ヶ月ごとに部長による面接を実施し、長期的および短期的目標の設定、研修の達成度の評価、学会活動と論文執筆の評価、進路相談などを行う。

・ 具体的経験目標 (研修目標)

- 皮膚症状の表現の理解
- 皮膚病理組織の理解
- 小手術を含めた外科的治療の理解
- 皮膚悪性腫瘍の治療法
- 重症乾癬の治療法
- アトピー性皮膚炎やアナフィラキシーなどアレルギー疾患の治療と管理
- 皮膚疾患の入院治療管理と外来患者の一般皮膚疾患への習熟
- 皮膚科関連学会への参加、発表、論文作成

## 勤務例

曜日	午 前	午 後	オンコール
月	回診・外来・病棟	専門外来 病棟カンファレンス，抄読会	あり（上級医と）
火	回診・外来・病棟	手術，月 1 回形成外科または放射線との合同カンファレンス	あり（上級医と）
水	回診・外来・病棟	専門外来	あり（上級医と）
木	回診・外来・病棟	手術，臨床写真・病理組織カンファレンス	あり（上級医と）
金	回診・外来・病棟	専門外来，月 1 回膠原病内科との合同カンファレンス	あり（上級医と）
土	病棟処置または休み		不定期
日	病棟処置または休み		不定期